



胃管チューブとは

経管栄養(胃管チューブ)とは、チューブを鼻(口)から胃に入れ、チューブを通し栄養を注入する方法です。

お子様にとってミルクを飲むことはとても大きな仕事ですから体力もたくさん使います。

ミルクを飲むのに時間がかかると、お子様の負担が大きく疲れてしまいます。

また、ミルクが飲めずにいると、必要な栄養が摂れず、体重が増えません。

そこで、お子様の負担を軽くし、ミルクが確実におなかに吸収され、体重が増えるようにするために『注入』をします。

胃管チューブ交換方法

お子様の挿入しているチューブ

- ◆ チューブの種類 ◆ チューブの太さ Fr
- ◆ チューブの挿入の長さ cm = 鼻先～耳たぶ～斜めにみぞおち
- ◆ チューブの体外の長さ cm

必要物品

- 栄養チューブ
- 注入用注射器 5cc または10cc
- 固定用テープ(あらかじめ切っておく)
- マジック (印つけ用)
- 水 ※必要時、潤滑剤・オリーブ油(植物油)



抜去手順

交換にあたり、現在入っているチューブを抜去します。

チューブの抜去は、刺激となり、吐いてしまうことがあります。できるだけ空腹時に行いましょう。

- ① お子様を仰向けに寝かせてください。
- ② 頭を固定し、テープをゆっくりはがしましょう。
- ③ 上体を少し持ち上げ、チューブのふたを閉じたまま静かにゆっくり抜きましょう。



挿入手順

挿入の前に...

チューブの挿入は、必ず空腹時に行いましょう。

胃の中にミルクが残っていると吐いてしまうことがありますので、次の注入時間の前に行うのが良いでしょう。

① 手を洗います。

② チューブを挿入する長さを決め、チューブにマジックで全周に印をつけておきます。

※チューブの挿入の長さ＝お子様の『鼻先～耳たぶ～斜めにみぞおち』の距離

※前回挿入していた長さで印を付けてもかまいませんが、医療機関に相談し

お子様の成長に合わせて、できるだけ実測をして挿入しましょう。

確認のために、体外のチューブの長さも測っておきましょう。



④ お子様を仰向けにし、頭を軽く前屈させるようにおさえます。

※体がバタバタしてしまわぬようにあらかじめバスタオルなどくるむとよいでしょう。

⑤ チューブの先に水(潤滑剤)を付け、印を付けたところまで、ゆっくり挿入しましょう。



※できれば前回と違う鼻腔に挿入しましょう。

同じときはテープの固定の位置をずらしましょう。

※角度はやや真下の方向に、飲み込むタイミングをみてチューブをすすめましょう。

※チューブが誤って気管に入ってしまうことがあります。

そのような時には、咳き込んだり、呼吸が苦しようになります。

お子様の呼吸が落ち着いてからもう1度やりなおしましょう。

⑥ チューブをまず鼻にテープ固定します。

⑦ チューブが胃内に入ったか確認します。

※うまく入らずに口の中ですぐを巻いてしまっていることもあります。

必ず、次の方法で胃の中に入ったことを確認しましょう。

● 注射器で空気をいれる。

みぞおちのすぐ下(胃のあたり)に耳を当て、
注射器で3～5cc空気を入れて気泡音を聞く。

⇒「ゴボツ」と聞こえれば OK!

● 注射器で吸引する。

⇒ 胃の内容物が引けてくれば OK!

※空気が引け続ける時、むせ込んでいる時、顔色が青白い時は
気管側に入ったことが考えられるので抜きましょう。



⑧ 胃内にはまっていることがきちんと確認できたら頬にもテープ固定しましょう。

※その際、鼻の穴がふさがらないよう、また、チューブが抜けないように、しっかり固定しましょう。

注意事項

◆ チューブは汚れが目立ったり、変形、破損した場合は、適宜新しいものに入れ替えましょう。

◆ テープは、はがれたり、汚れたら適宜貼り替えてください。

◆ チューブがあたって鼻や皮膚が赤くなったりしていないか注意しましょう。

◆ 1日1回はチューブの挿入長さ(体外の長さも)を確認しましょう。印が消えかけていたら再度印をつけましょう。



経管栄養注入方法

必要物品

- ミルク(栄養剤)
- 栄養注入ボトル (600cc/100cc)
- 栄養注入セット
- 注入用注射器
- 後押し用の白湯
- 延長チューブ(必要時)
- 【ポンプ使用の場合】
- 注入ポンプ
- 注入ポンプ用栄養注入セット

注入手順

- ① 手を洗います。
- ② 栄養チューブのテープ固定を確認します。
- ③ 栄養チューブが胃内にあるか、胃内にミルクが残っていないか(胃残)を確認します。
胃残がない場合は気泡音を耳で聞いて確認しましょう。

胃残が引けてきた場合 ※胃残の対応についてはあらかじめ確認しておきましょう。
 - ・ ミルクが少量 ⇒ 戻して予定量を注入
 - ・ ミルクが多量 ⇒ 時間をずらす or 差し引き注入 or 濃度を薄くする
 - ・ 透明で胃液様の物 ⇒ 戻して予定量を注入
 - ・ 血液が混じった物 ⇒ 捨てて予定量を注入
- ④ ミルク(栄養剤)を適温に温め、栄養注入ボトルに入れ、栄養注入セット内をミルク(栄養剤)で満たします。 ※セットの方法・ポイントは別紙参照 ※栄養剤は常温でもかまいません。
- ⑤ 栄養注入セットと栄養チューブを接続し、注入を開始しましょう。
※通常は30～60分かけて注入しますが、お子様の状態により異なりますので相談しましょう。
- ⑥ 注入が終わったら、栄養チューブ内に白湯を cc程度流しましょう。
- ⑦ 栄養注入ボトル・セット・注射器などは中性洗剤で洗ってよくすすぎ、乾かしましょう。
※心配な場合は哺乳瓶用消毒剤で消毒しましょう。
※食器洗浄機・電子レンジは変形・破損の原因になりますので使用しないでください。
※栄養注入ボトル・注射器は破損・汚れが目立ったら、新しいものに交換しましょう。
栄養注入セットは1週間に1回交換しましょう。

日々の管理のポイント

- 使用済みの栄養注入物品は、お住まいのゴミ捨てルールに従って処分してください。

何かお困りのことがございましたら、かかりつけ医か当院外来にご相談下さい。